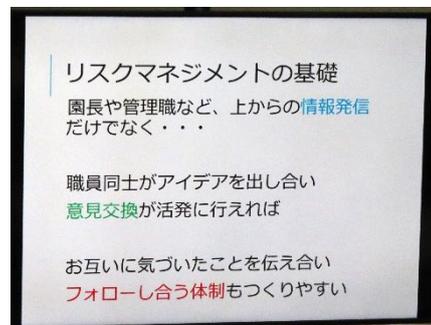
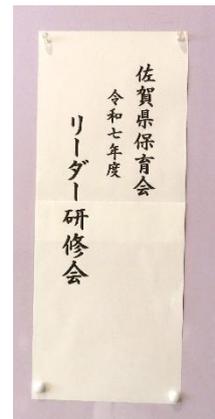


「令和7年度リーダー研修会」報告書

- 【期 日】 令和7年11月28日（金）
【会 場】 佐賀県社会福祉会館
【主 催】 佐賀県保育会
【参加人数】 109名（参集 56名、オンライン 53名）
【内 容】 研修1 12:30～16:30
「情報共有の重要性とリスクマネジメント」
講師 占部 尊士 氏
（西九州大学 健康福祉学科 社会福祉学科 准教授）



1、情報共有の重要性

リスクが起こる → 人で不足が原因か…

しかし、人手が多くても、情報共有されていないと軽減されない。

《コミュニケーションはリスクマネジメントの基本》

- ・リスクは職員間の連携がうまくいかないと起こるので、迅速に情報共有する
- ・職員同士でアイデアを出し合い、意見交換を活発に行う
- ・職員間で意思疎通を行い（報・連・相）、話し合う。

リスクを軽減するために、人間関係を深め、積極的にコミュニケーションをはかり、お互いの距離を縮める努力をする。人間関係を深める必要がある。関係性を深めることで、お互いをリスペクトし合い、周囲にもその人間関係が認知されるようになる。

《コミュニケーション上の配慮》

保育職は、子どもや保護者などの関係者、同僚や上司や他専門職との連携・協働している。子どものよりよい環境の実現に向け、必要な情報をやりとりするだけでなく

- ・挨拶を気持ちよくかわす
 - ・楽しい雰囲気での談笑
 - ・親しみをもって言葉を交わす
- といったことも重要である。

話し合いの中で、意見や考えの違いを把握し、理解を深め、意見の一致をもたらすように積極的に働きかけていく。

また、自分の意見や主張を伝えるコミュニケーションのスタイルは3つある

①アサーティブ・コミュニケーション

自分の意見を率直に伝え、相手の思いも大切にして応答しようとする相互尊重スタイル。

②ノン・アサーティブ・コミュニケーション

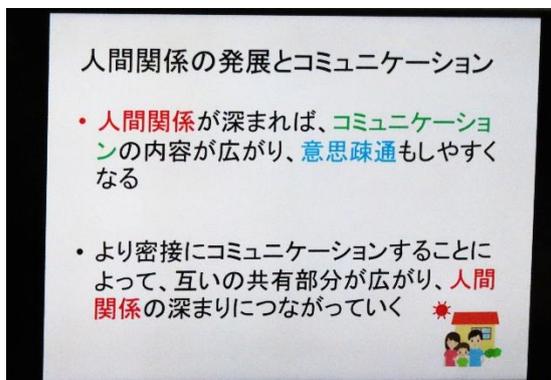
相手を優先してしまうスタイル。必要以上に相手を尊重してしまい、ストレスをかかえる。

※言いやすい環境のサポートをする

③アグレッシブ・コミュニケーション

相手の事を考えずに、自分の意見を通すスタイル。ミスを起こしやすく、ミスに気付かない。※本人が傷つかないようにどう伝えるか、冷静に受け止めるサポートが必要。

②、③はリスクに繋がりがやすいので、それぞれに合ったサポートをすることが重要である。



《組織と情報の流れ》

組織とは人数の多い大集団。全員が顔を見ながらのコミュニケーションは難しい。

(1)組織におけるコミュニケーションの特徴

- ①指揮命令系統が存在する
- ②上下関係を前提とする（一人ひとりの情報を全体で共有する）
- ③言語的コミュニケーションを主体とする（記録に残す→ファイリング→振り返り）

(2)組織における情報の流れ

- ①トップダウン（上層部の意見を下層部へと伝え、意思疎通をはかる）
- ②ボトムアップ（下層部の意見を上層部へと伝え、意思疎通をはかる）
- ③メンバーシップ（縦と横のつながりを大切にし、一人ひとりがメンバーシップを発揮し、目標に向けて協働する事）

組織において情報の流れを円滑にするために「報・連・相」が必要である。

《情報を共有するポイント》

- ・情報共有（申し送り事項）の固定化
- ・いつでも確認できる工夫

2, グループワーク（13:30～13:45）

◎各園でのコミュニケーションの取り組みや情報共有のやり方について話し合う。

- ・職員が多い中、些細な言葉かけや雑談で良好な関係を築いている。
- ・ICTを使用して情報共有をとっている。
- ・保護者との会話も大切にしている。
- ・主任や副主任が積極的にコミュニケーションを取るなどの意見がでる。

講師の先生より

- 情報共有にICTの活用だけでなくアナログ的なものを使用することも大切。
しかも、ICTは万能ではないので、二重三重のダブルチェックが必要である。
1つの方法では防げない。
- 分かっているつもりではだめ。必ず確認する。（見える化する）

3, 現場におけるリスク

保育現場での事故は、2024年過去最多を更新。9年連続で増加している。
しかし、死亡事故は減少している。

事故とは

- ・重大事故 … 死亡や治療に30日以上を負傷や疾病
- ・事故 … 保護者に報告を行う必要がある状況
- ・ヒヤリハット … 子どもにとって事故になると可能性があると感じた出来事

└─▶ 積極的に見つけて、改善する

《保育のリスク》

リスク = ハザード × 保育的な問題点

ハザードとは、事故によって子どもが怪我をする直接的な原因

保育的な問題点とは、①子どものミス

②保育者のヒューマンエラー

※ヒューマンエラーを防ぐために、コミュニケーションを良くし、ヒヤリハット活動に取り組むことが大切である。

- ・緊急事態への対応について、日頃からの実践的な訓練を積むことが求められている。

《事故の初期対応》

- ①事故状況を確認し、他の子どもの安全確保（二次被害防止）
- ②保護者への報告だけでは不十分。保護者の疑問に答える必要がある。
- ③「いざというとき」において迅速に行動できる
→日頃から救急救命の流れについて取り組んでおくことが重要

《再発防止のポイント》

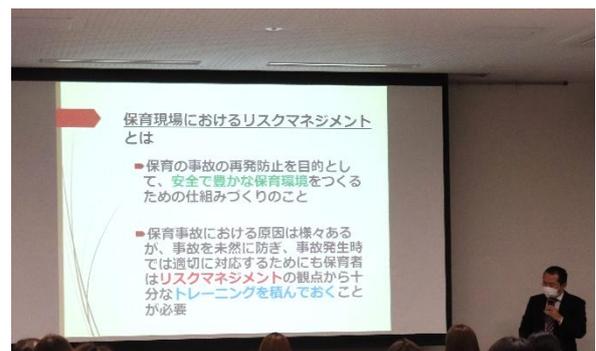
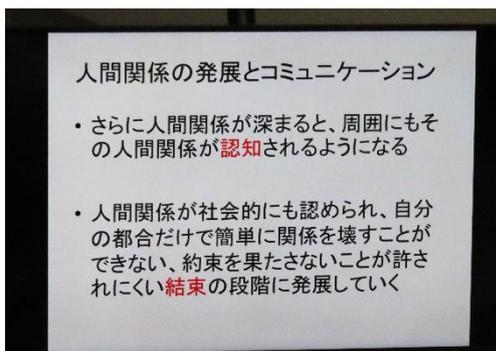
- ・子どもの発達を見極め、具体的な再発防止策を施す。
- ・適切な記録を取る（聞き取り確認を行う）

《自己分析と再発防止の手順》

- ①かかわった職員すべてに事実確認を個別にする
- ②保育の専門性に基づいて原因の分析
- ③仮説を立てる
- ④援助内容を組み立てる
- ⑤記録に残す（事故報告に対応まで記録する）

リスクマネジメントとは、保育の事故の再発防止を目的とし、安全な保育環境につながる仕組みをつくることである。

ケガをさせない為に「何もしない」では豊かな保育からかけ離れてしまう。最小限のリスクで最大限の学びが得られるような保育環境を作る事こそが「保育現場におけるリスクマネジメント」である。



4, グループワーク (15:20~16:25)

「保育現場におけるリスク」をテーマにマンダラチャートを作成

- ①リスクシートを活用して、リスク対策の優先順位をつける
- ②マンダラチャートを作成する

※時間の関係で、グループ発表なし

講師の先生より

マンダラチャートを作成することで園でのリスクを職員全員で話し合い、個々のリスクでそれぞれ9個の対応策ができる。自園の状況に合わせたリスクを見つけ、次年度の対策を計画することができる

【感想】

保育の現場の中でリスクを0にすることは難しいですが、子どもたちにとって、より良い保育環境づくりは保育者の大切な役割。その環境づくりの為には職員間でのコミュニケーションや情報共有をすることで、重大な事故を防ぐことができると学び、職員間での人間関係、コミュニケーションの重要性、また情報共有の大切さを再認識しました。

また、リーダーとして、様々な職員がいる中で、保育者もよりよい環境の中で仕事ができるようにコミュニケーションを取ったり、情報共有をしやすくするための工夫をしたりして取り組んでいかないといけないと感じました。

(文責：さくら保育園 吉田 亜矢)